

(様式2)

令和 2 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1591200181		
法人名	有限会社 公衛社		
事業所名	グループホームふるさと		
所在地	新潟県村上市中原3920番地1		
自己評価作成日	令和2 年10月 6日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/15/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人新潟県社会福祉士会		
所在地	新潟県新潟市中央区上所2丁目2番2号 新潟ユニゾンプラザ3階		
訪問調査日	令和2年11月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・事業所名の”ふるさと”とは、大切な人と巡り合った場所であり、事業所に関わる人々が少しでも笑顔になれるように取り組んでいる。
・コロナ禍であるが、手作業を実施し、小物作りをおこなったり、くすみ割り作業を実施し、道の駅等に出荷している。今までとは違った生活様式で、活動をおこなっている。
外部活動を中心に展開してきたが、コロナ禍であり、なかなか自由が利かないが、次年度は生活様式に注意しながら、外部活動を展開していきたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は開設して6年を迎える中で、どんな方でも受け入れる努力をし、入居後もいろいろな人と出会う場所としての活動を行い、今もその活動を継続している。建物は木造平屋建で木の温もりが感じられ、天井も高く圧迫感のない造りである。居室には表札はなく旅館風に設え、廊下のトイレは表示はないが動線を考慮して手洗いの位置が工夫されており、灯りも昼間と夜間の調光がされている。

外出支援に力を入れ、日常的に車で出かけて気分転換を図ったり、畑に出かけて作物を収穫して芋煮会を企画したり、ぎんなん拾いや、柿をさわして食卓に載せたりしている。畑は事業所わきの畑に加えて、運営推進会議での家族の紹介で道の駅近くに借りることができ、来春からは3か所の畑で様々な作物を作る楽しみができた。

個々の職員は利用者に喜んでもらうことを一番と考えて芋煮会やそうめん流しなどを自由に企画し実施している。コロナ禍でありながらも敬老会を瀬波温泉旅館で行い、入浴や食事を楽しんできた。市町村のイベントや地域の祭りなども中止となっているが、小学校の運動会に参加したり登下校の見守り活動など出来る限り交流ができるように工夫をしている。和雑貨作りも職員と楽しみながら行い、地区の道の駅など2か所に出品販売しており、収益は利用者で相談しながらみんなで楽しめることに活かしている。

毎日のように入浴できる体制ができており、重度化した場合でも対応できる浴室も設置されている。家族と相談しながら看取り介護にも積極的に取り組んでおり、また、どのような場合にも職員の振り返りを必ず行いながら更なる質の向上に努めている。

開設時からの理念である利用者が「笑顔」で生活ができるように、コロナ禍においても職員の様々なアイデアを取り入れ、笑顔が絶えない事業所づくりを行っている。

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員会議、個別面談にて理念を共有している。ケアを通して実践を踏まえ、確認作業をおこなっている。(ケース会議でも理念に沿った支援方法を確認作業を実施)	理念は、開設時に「笑顔」と一言で分かりやすいように作成した。職員会議や検討会、個別面談でも常時確認している。玄関には木彫りで理念を掲げている。笑顔は人にパワーを与え、もらうことができるということを実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルスにより今年度の活動は、小学生の登下校の見守り活動のみである。	普段から地域活動が活発であるが、今年度はコロナ禍の中であったが、小学校の学校田の田植えや稲刈りに参加したり、運動会にも参加して馴染みの方や孫とも会って交流することができた。少しずつ出来るところから活動を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	スマイルカフェを開催したり、地域向け、家族向けに認知症サポーター要請をおこなっていたが今年度は、新型コロナウイルスもあり実践できていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自由に外出される利用者の安全確保について情報提供し、対応策を共有している。今年度は、新型コロナ対策として、書面決議としている。	コロナ禍では書面会議としてきたが、2020年11月からは事業所内で開催する予定である。リビングで開催するため普段の様子を観察でき、利用者からの発言もみられる。畑を借りることに会議で情報をもったり、仲介をしてもらったりしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	新型コロナ対策を含め、小規模事業所であるため、面会等を含めた対応を市町村に相談している。	コロナ禍での面会対応や利用者についての相談、研修会などの情報提供などを適時行っている。大雨や災害、最近ではクマの情報などの連絡があり、利用者の事業所周辺での活動に活かしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議にて、身体拘束廃止、虐待防止について話し合いをしている。(理念の共有)	「身体拘束廃止委員会」には運営推進会議のメンバーにも入ってもらっており活発な意見交換が行われている。一人で外出する利用者には、その人の行動パターンを把握して、帰ってこれない時はいつもと違いがあるかを確認している。また、近所の方が帰ってこれなくなった利用者を事業所まで連れてきてくれるなど連携がとられている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議にて、身体拘束廃止、虐待防止について話し合いをしている。(理念の共有)	利用者へのことば使いがきついと表情にも出てしまうので、事例を使っての対応方法などを職員会議や検討会などで話し合っている。職員へのストレスマネジメントについて管理者が気になったときはすぐに職員にその都度話をするようにしている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市町村に制度について確認したり、パンフレット等で把握している。今後も継続的に研修会等に参加する。協力施設での合同研修会実施。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、担当者会議時等、意見、要望を聞いて、反映させている。(今年度もご家族アンケートを頂く予定)状態変化等があった場合、その都度担当者会議を実施。	家族からの要望などは面会時だけでなく、検討会の際などに意見や要望をきめ細かく聞いて出来るだけ反映させるようにしている。利用者の様子を知りたいという家族の要望には、担当職員から情報提供を行うなど意見を反映させている。検討会等は家族に参加してもらえよう働きかけている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や日々の業務から情報収集を行い反映させている。感染症対策、緊急時の対応の不安があり、看護師による緊急時の対応を学ぶ。	月1回の職員会議のほか、日常的に意見が出されている。夜間帯の緊急時に不安があるという意見に対して、看護職員が資料を作って研修会を行った。職員が利用者と一緒に行動することは企画を上げなくても自由にやりたいことにチャレンジしている。そうめん流しをしたり、サンマを炭火で焼いたり芋煮会を行うなど、職員の意見を積極的に運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自発的な研修参加希望時は、参加してもらっている。(今年度は、新型コロナ対策のため見合わせている)		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新型コロナ対策の為、外部研修への参加はしていない。Zoom研修においては、検討中。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度は、新型コロナ対策のため、同業者との会合はおこなっていない。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスに慣れない利用者(初期段階)には、顔なじみになるように自宅への訪問回数を増やし対応している。(体験利用も実施)		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族から相談を受け、対応している。又、入居後も自宅への外出時等の注意点など、共有している。(新型コロナ対策も含め)		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	情報を把握し、場合によっては市町村へ連絡し、必要なサービスを提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の出来ることを見つけ、実施して頂いている。(安全ボラ、環境美化活動、調理、清掃)		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	各家庭、いろんな悩みや出来事がある。ケースバイケースで対応し距離感の必要な利用者、家族には適度な距離感を保ちながら進めている。	利用者の受診の際や、家族の来訪時には良く話を聞いており、また、電話や県外の家族にはオンライン電話で報告するなど、情報共有に努めている。家族とは個人的な相談にも対応するなど家族との関係を大切にしている。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの関係については、新型コロナ対策をしながら、リモート面会等をおこなっている。	入居前に住んでいた地域のバス旅行に参加して馴染みの方との交流を楽しんでいる。コロナ禍であっても、家族の面会にはできる限り対応出来る工夫したりリモート面会などの試みを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用される方は不安を抱えている。アセスメントを通して、入居前のスタイルを変えずに必要な部分での職員介入し利用者同士の関係性を築くようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後もふるさとのイベント等の情報提供をおこない、専門的なことは何でも相談できるような体制を整えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃のコミュニケーションから本人の希望等を聞き取り、ケアプランに反映させている。	本人の意向や希望が少しでも叶えられるように介護計画に反映させており、担当職員が毎月モニタリングを行って、その都度確認している。また、希望などを表出できない方は、担当職員が日ごろの行動から思いをくみ取るようにしたり、家族から情報を得るなど工夫している。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、親せき等から情報を収集し、他事業所を利用していたときの顔なじみの方との時間を大切にしている。	入居前の事前面接だけでは十分な状況がわかりにくい場合もあり、家族や他事業所からの情報などを丁寧に収集してここの暮らしに役立てている。家では寝てばかりいた方が、家族がミシンを持ち込んだことで居室で雑貨作りに毎日活き活きと取り組んだ事例もある。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	コミュニケーションから日頃の観察から把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	出来る方は、本人から意向の確認をとり、家族からは情報収集し、カンファレンス等で情報共有しながら介護計画を作成している。	担当職員と、計画作成担当者は毎月の職員会議の際にカンファレンスを行い、介護計画を作成している。新規入居時や状態変化時の検討会には必ず利用者、家族に参加してもらっており、各フロアの職員は書面で情報を共有している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員が記録しやすいような書式にて記入し、カンファレンス等で検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	今年度は、新型コロナ対策の為、外部活動を自粛している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居前での地域の方が、連絡を取ってくれている。新型コロナであるため電話等で行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	各個人のかかりつけ医との面談の機会を設け、情報共有をおこなっている。又突発的な体調不良には、往診対応の出来る協力医にお願いしている。	協力医療機関は月に1～2回の訪問診療のほか、状態報告により適時往診もしてもらっている。歯科や眼科など専門医への受診は事業所が受診支援をしている。事業所の看護師とは夜間なども適時連絡を取れるようになっており、対応してもらっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	オンコール体制の整備や申し送り等で情報共有し利用者の安心に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	各個人のかかりつけ医との面談の機会を設け、情報共有をおこなっている。又突発的な体調不良には、往診対応の出来る協力医にお願いしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族又はご本人を含め、終末について話し合い、当事業所で看取り対応を行っている。本人、家族の意向を大切にしている。	本人、家族の意向に添って看取りを実施している。指針は入居時のほか、体調変化などに家族に十分説明をしている。職員は家族の意思を共有し他職種とも連携し看取り対応している。看取り後も振り返りを行い、職員の理解を深めるとともに、さらなる質の向上を図っている。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	心肺蘇生法やAED操作訓練をおこなっている。職員会議等にて緊急連絡網対応を確認している。	各種のマニュアルやフローチャートを作成して掲示している。感染症や緊急対応などについては看護師から指導を受けており、心肺蘇生法は救急救命の資格のある職員が職員会議等で講習している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今年度は、新型コロナ対策のため、事業所内のみで実施。	地区の防災無線により、大雨等の避難準備情報や最近のクマ情報などの情報を得ている。2020年9月には風水害避難訓練で地区の保健センターまで移動訓練を実施した。近隣住民に災害時に避難誘導の協力をもらい、近隣の特別養護老人ホームとは災害協定を締結して連携している。備蓄についても防災担当職員が定期的にチェックしている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員会議にて、人権、プライバシーの保護について確認作業をおこなっている。	排泄時の声掛け等には留意しているが、普段の利用者との会話での言葉遣いについては、地域の方言も使いながら親しみを込めている。職員会議では個々に確認をしている。記録はリビングで行っているが、キッチンのリビングからは見えない棚に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定に心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	可能な限り希望にそって対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で出来る方については、声掛けしながらおこなっている。出来ない方に対しては、職員が対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	新型コロナ対策のため、一緒に出掛け買い物をするといった活動は自粛しているが、好みのものを聞いて、食のイベントを実施している。	献立は職員が交代で作成しているが、その時々を外出や食材等で臨機応変に対応している。買い出しは市内スーパーに利用者と共に出かけ、利用者は野菜の皮むき、食材を切る、食器洗いなどそれぞれ役割をもって参加している。干し柿づくりや畑で採れたサツマイモを使った料理、寿司バイキング、流しソーメンなど季節ごとに食事を楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	看取りを含め、食事量の少ない方は、かかりつけ医と相談しながら対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、口腔ケアを促している。出来ない方については、職員が対応している。場合によっては、協力歯科医へ相談している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	左記のように対応している。	日中はできるだけトイレでの排泄を支援しており、誘導声掛けに留意している。支援により皮膚状態が改善した事例や、紙おむつの方が布パンツとパッドに改善した事例などがあり、個々に応じた対応を心掛けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の何気ない活動を促し、体を動かし、予防に努めている。場合によっては、かかりつけ医に相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的に毎日、入浴している。生活のリズムの中で入浴時間帯が決まってきた。今年にはコロナ禍であり、日帰り温泉は自粛している。敬老会をおこない、その際は日帰り温泉を利用。	浴室は坪庭があったり、3方向から入れる浴槽でゆったり過ごしてもらえる工夫がなされている。利用者の皮膚状態等も注意しながら毎日入浴できるように働きかけたり、トイレからそのまま浴室に移動できるように入口を設けるなど工夫している。日帰り温泉に出かけたり、畑仕事の後に職員と一緒に風呂に入って話をするなど楽しめるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の望むようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ダブルチェックを行い、誤薬防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ひとり一人の役割がありIADLを充実するようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人散歩に出かける人もおり、行方不明とならないように対策をとっている。コロナ禍であり、人込みの多いところへの外出は避け、ドライブをメインにおこなっている。	日常的には、近隣の散歩なども見守りで対応し、一人で出かけるときはクマよけの鈴をつけてもらうなどしている。ユニットごとに短時間のドライブに出かけ気分転換を図っている。敬老会などにはコロナ禍でも温泉旅館の協力を得て日帰り温泉を楽しんでもらった。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者個々によって管理できる人には管理してもらい、管理が難しい人でも買いもの先で支払いをしてもらったり、外部とのやり取りをおこなってもらっている。(コロナ禍であり、買い物も自粛傾向)		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由にしてもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各箇所にて工夫し、視野も楽しめる空間の提供。季節感を表現するために定期的にレイアウト変更等を行っている。	トイレの手洗いは動線を考慮して設置されており、表示もトイレとの記載なく電気や和布で工夫している。廊下の手すりには竹が使われ、各居室も名札はなく旅館風である。また、食堂には空気清浄機を設置して換気等に努めている。共用空間の座席は、利用者の様子をみながら、適宜変更し快適に過ごせるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居場所については、ご自由に決めてもらっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅での使い慣れたもの持参してもらい、少しでも安心できるしつらえを本人、家族等で検討してもらっている。	基本的には自宅での使い慣れたものを持参してもらっている。居室でミシンを使ったり、小さい冷蔵庫を持ち込んだり、テレビなどを見て楽しんだり、写真を飾ったりしている。衣類の入れ替え等は家族の協力を得ており、掃除は職員が利用者と一緒にやっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	事業所内バリアフリーであるが、それを感じさせない工夫をしている。又、トイレだと分かるように工面している。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				